

# 千葉県感染症発生動向調査情報

2016年 第36週 (9/5-9/11) の発生は？

## 1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		36週	35週	34週	33週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数 「定点当たりの患者数」とは 報告患者数/報告定点数。	小児科	18	18	17	18
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ*	28	28	27	27
	基幹定点	1	1	1	1

定点	感染症名	千葉市				千葉県 8/29-9/4 35週	
		注意報	9/5-9/11	8/29-9/4	8/22-8/28		8/15-8/21
			36週	35週	34週		33週
小児科	RSウイルス感染症	↓	17 0.94	18 1.00	6 0.35	2 0.11	132 0.98
	咽頭結膜熱		2 0.11	0 0.00	1 0.06	2 0.11	30 0.22
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	38 2.11	29 1.61	21 1.24	23 1.28	214 1.59
	感染性胃腸炎		82 4.56	75 4.17	50 2.94	39 2.17	439 3.25
	水痘		11 0.61	3 0.17	6 0.35	2 0.11	29 0.21
	手足口病		38 2.11	27 1.50	18 1.06	21 1.17	208 1.54
	伝染性紅斑		3 0.17	3 0.17	2 0.12	4 0.22	21 0.16
	突発性発しん		22 1.22	11 0.61	13 0.76	16 0.89	71 0.53
	百日咳		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	6 0.04
	ヘルパンギーナ		49 2.72	53 2.94	28 1.65	55 3.06	196 1.45
	流行性耳下腺炎		5 0.28	5 0.28	4 0.24	3 0.17	70 0.52
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		8 0.29	1 0.04	0 0.00	0 0.00	3 0.01
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		3 0.60	6 1.20	2 0.40	0 0.00	36 1.03
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	無菌性髄膜炎		0 0.00	1 1.00	0 0.00	0 0.00	3 0.33
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	2 2.00	0 0.00	0 0.00	9 1.00
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		1 1.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

## 2 全数報告対象疾患(13件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	20歳代	IGRA検査等	E型肝炎	男性	50歳代	血清抗体の検出
結核	男性	40歳代	病原体の検出等	レジオネラ症	男性	70歳代	病原体抗原の検出
結核	男性	50歳代	病原体の検出	カルバペネム腸内細菌科細菌感染症	女性	80歳代	菌の検出、薬剤耐性の確認及び起因菌の判定
結核	男性	60歳代	画像診断等				
結核	男性	80歳代	病原体遺伝子の検出	後天性免疫不全症候群	男性	60歳代	血清抗体の検出
結核	女性	40歳代	IGRA検査等	播種性クリプトコックス症	男性	50歳代	莢膜抗原の検出
結核	女性	50歳代	IGRA検査	風しん	女性	30歳代	血清IgM抗体の検出

・第36週は、結核7件(181)、E型肝炎1件(3)、レジオネラ症1件(7)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症1件(8)、後天性免疫不全症候群1件(3)、播種性クリプトコックス症1件(3)、風しん1件(4)の報告があった。

※ ()内は2016年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

## 定点当たり報告数 第36週のコメント

<RSウイルス感染症> 前週から減少し0.94となったが、過去10年の同時期と比べると最多のまま。  
 <A群溶血性レンサ球菌咽頭炎> 前週から増加し2.11となった。過去10年の同時期と比べると最多。

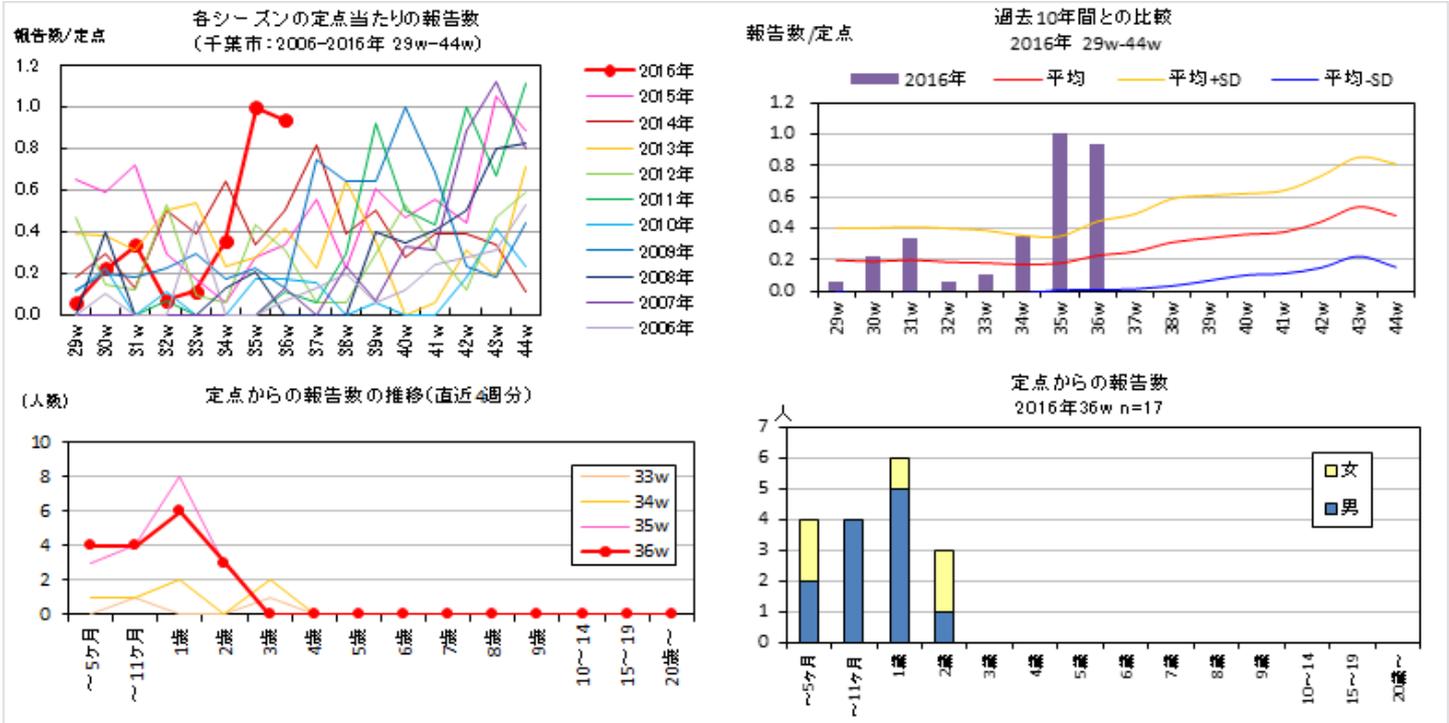
■ トピック ■

＜RSウイルス感染症＞

全国レベルの第35週は過去9年の同時期と比べると最多となっています。都道府県別では、宮崎県、岩手県、新潟県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多めとなっています。

千葉市の第35週は前週より減少し0.94となりましたが、過去10年の同時期と比べると最多のままとなっています。区別の発生状況は、緑区及び美浜区(共に1.75/定点)で最多となっており、緑区では1歳、美浜区では2歳で最も多く発生報告がありました。

今シーズンである2016年第36週の報告数(n=17)によると、性別では男性が70.6%(12名)、女性が29.4%(5名)で、年齢階級別では1歳(35.3%:6名)が最も多くなっています。



＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞

全国レベルの第35週は過去9年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、山形県、鳥取県、岩手県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多めとなっています。

千葉市の第36週は前週より増加し2.11となり、過去10年の同時期と比べると最多となりました。区別の発生状況は、緑区(6.5/定点)で最多となっており、同区的一年代当たりでは1歳、3歳及び4歳で最も多く発生報告がありました。

今シーズンである2016年第36週の報告数(n=38)によると、性別では男性が52.6%(20名)、女性が47.4%(18名)で、年齢階級別では3歳及び4歳(共に15.8%:6名)が最も多くなっています。

